

すわみつえ通信

No.322 2024年7月8日

日本共産党鴻巣市議会議員
諏訪 三津枝



連絡先 鴻巣市赤見台3-2-7
TEL : 596-9440 FAX : 507-4151
携帯 : 080-5039-2785
E-mail : mi-suwa@ezweb.ne.jp
mitsue-suwa@jcom.zaq.ne.jp

WEBで

すわみつえ



身近な議員として もっと届けたい声がある 声をかたちに

七夕宣伝 in 鴻巣

日本共産党 梅村さえ子元衆議院議員が訴え



7月7日(日)11時から1時間ほど、梅村さえ子元衆院議員が日本共産党の宣伝にかけつけました。聴衆の中にお子さん連れの親子がおられるのを見た梅村さえ子さんは「子どもの人権が守られる社会をつくりたい」と切り出し、ジェンダー平等、沖縄の少女への米兵による性暴力の問題、若者がおかれている賃金の問題、自民党裏金事件。問題噴出の解決のため政治を変えていこうと力強い訴えをしました。「しんぶん赤旗」日曜版の見本紙を用意したところ通行される多くの方が受け取ってくれました。

暑い夏、各地の災害対策視察研修に参加、学習して市政に活かします

例年7月・8月は様々な視察研修が行われます。研修で学んだことを議員活動に活かしていきます。今年は7月1日～2日に、埼玉県央広域事務組合議会の視察研修が行われ参加しました。

1. 埼玉東部消防組合消防局（加須市）

津波や大規模な風水害による人命救助に対応するため、「水陸両用バギー」が平成27年に総務省消防庁から無償貸与され、加須消防署に配備されています。利根川河川敷内で「水陸両用バギー」を使用した主な訓練を行っています。



2. 八千代市消防本部（千葉県）

消防隊員が身体に装着したカメラ(ウェアラブルカメラ)が災害現場や救助活動で役に立っています。クラウドサーバーを活用し、指揮本部などで映像を共有し活動方針の決定をします。ウェアラブルカメラを操作する災害については、特異事案と判断し撮影を必要とする場合や、訓練等で資料作成に必要な場合など要綱が定められています。



3. 長生郡市広域市町村圏組合消防本部（千葉県）

組合の構成市町村は、茂原市・一宮町・長生村・長柄町・長南町と1市5町1村と大変広域です。また、共同処理をする事務は、消防・火葬場・斎場・水道、ごみ処理、病院、介護認定審査会などなど、多岐にわたります。

視察は茂原市市役所で、令和5年9月8日の一宮川流域の台風13号による大雨災害について行われました。千葉県の事業として、大雨に対応できるよう、川幅を広げる工事、調節池の設置、堤防のかさ上げなどの対策を進めています。

気候変動による線状降水帯のような雨の降り方にどこまで対応ができるか、鴻巣での検討も急がれます。

【俳句コーナー】

梅雨ごもりオリエンタル
リリーに励まされ

瑠璃子

毎週朝 駅頭においてホットなニュース「すわみつえ通信」をお届けします。

(月)吹上駅南口 (火)北鴻巣駅東口 (水)北鴻巣駅西口 (木)吹上駅北口 (金)鴻巣駅西口

希望を未来を 一緒に考えませんか?

日本共産党創立102周年
記念講演会 **ONLINE** への
おさそい

7/13 2024 **START** **14:00**

記念講演

日本共産党委員長

田村智子

YouTube



視聴
QRコード

物価
高騰

教育費
重い負担

政治家の
ウラ金

敵基地
攻撃
ミサイル

なぜ
ジェンダー
不平等 **はて?**

当日YouTubeで配信。ぜひご視聴ください。 https://www.jcp.or.jp/web_jcp/2024/07/102th-kinen.html

ちひろのむらさき



ぶどうを持つ少女

むかし中国では季節を色にたとえた。春は青、夏は赤、秋は白、冬は黒。春から夏へと移ろうこの時期、むらさきの花が目立つのはそのせいだろうか。庭先のアジサイも連日の雨にぬれて、青と赤の絵の具を混ぜたみたいにつやめいている◆むらさきで思い出すのが絵本画家いわさきちひろ。55年の生涯に、分かっているだけでも1万点近い作品を残した彼女は、むらさきの淡い水彩を好んで子どもを描いた◆結婚してしばらく後、ちひろは記念に指輪が欲しくなり、夫と新宿へ出かけた。買ったのは誕生石のジルコン。いちばん安い、やさしいもいろいろを選んだ。10年ぐらいたつと、少しくすんでベージュがかった◆さらに10年後、指輪からもいろいろは失せ、淡いグレーになった。〈色が変わる宝石なんて、ほんとに人造

石なのでしょう。けれど夫の買ってくれたこの石の色が、少しずつ私の年にあわせて、うつっていくのが生きているようで、不思議な気がしているのです〉。まるでアジサイのように変わる色彩をいとおしんだ◆果実は熟してむらさきになる。それを目印に食(は)む生きものと植物とを結ぶ「共生」の色なのだと、東京・下石神井の「ちひろ美術館」の解説にあった。高度成長のただ中、失われつつあったやさしさや美しさを絵筆に込めたひとが亡くなって、この夏で半世紀になる。(佐賀新聞 6月30日付)